

市内小中学校適正配置の方向性に関する事務局案

【常総市の適正配置の柱】

■ 児童・生徒の学びの質の向上と保障

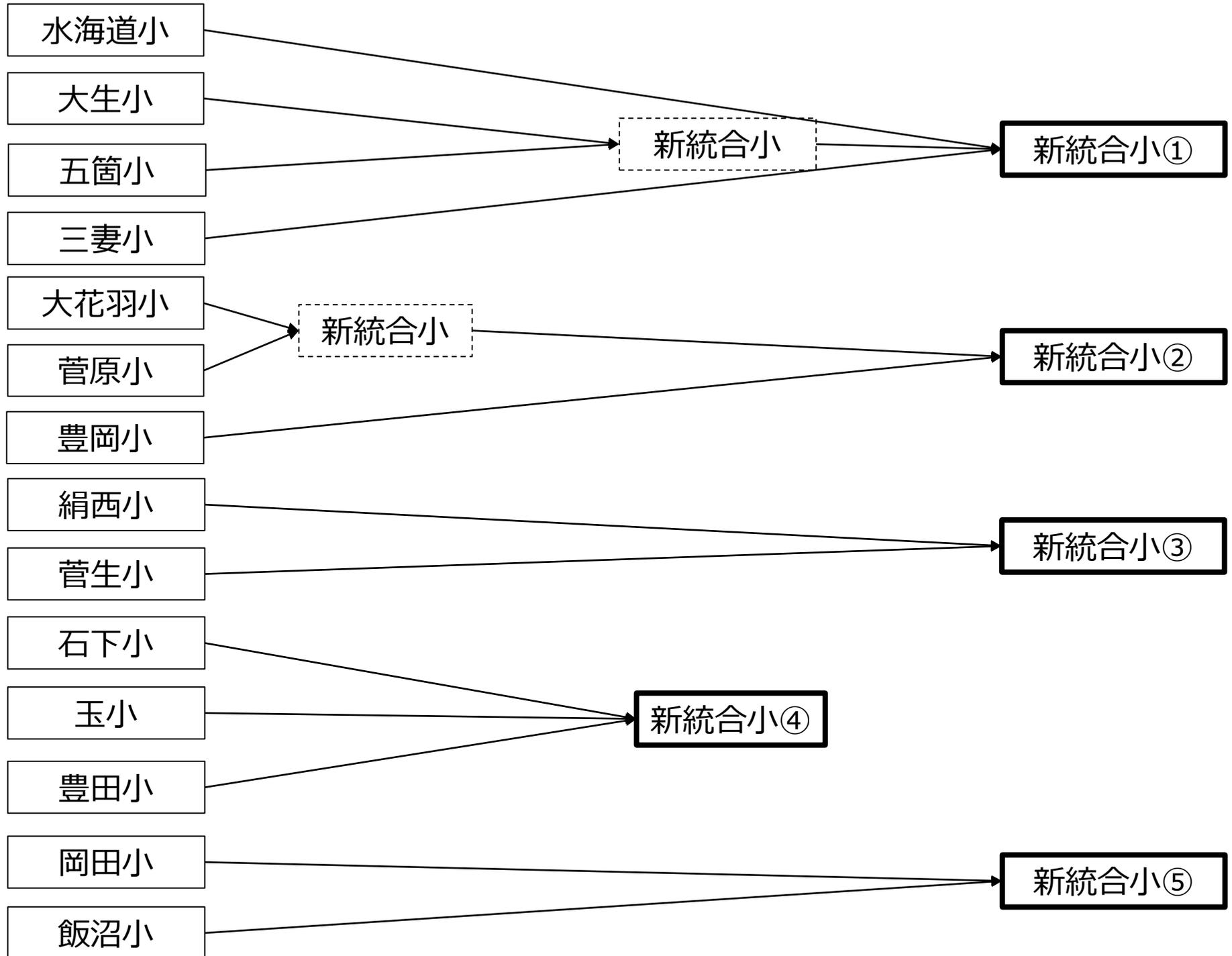
■ 最終形として5つの小学校と4つの中学校

[小学校]

<第1段階>

<第2段階>

<第3段階>

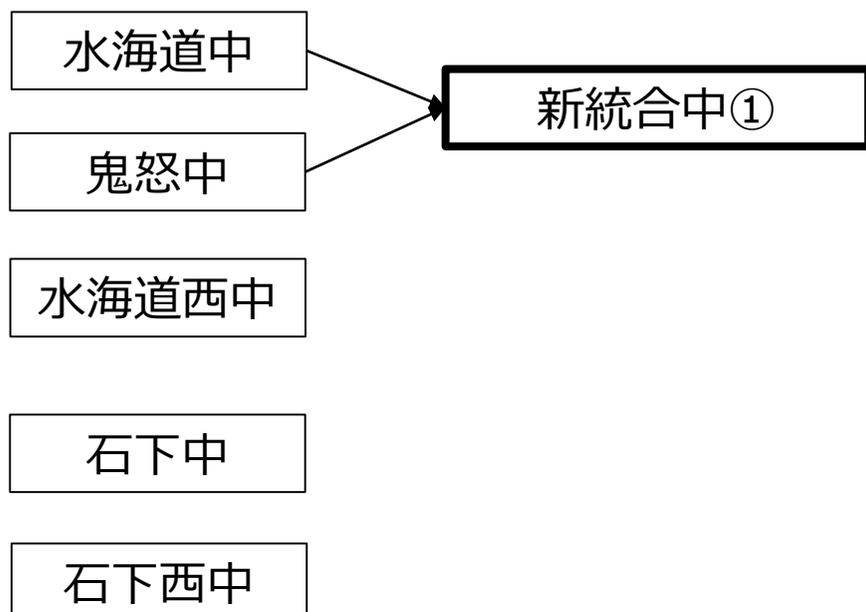


[中学校]

<第1段階>

<第2段階>

<第3段階>



事務局案に関する説明内容

<事務局で報告した素案の考え方>

平成22年8月の答申を踏襲しつつ、近年及び今後の児童生徒数・学級数・施設の状況等の分析結果を踏まえた中で、「児童生徒の学びの質の向上と保障」という観点を柱として、

- ①適正配置の対象を市内小中学校全19校とし、
第3段階として10年から15年先を見据えたうえで、
第1段階・第2段階と段階的に進める内容
- ②最終的なイメージは、小学校5校、中学校4校の案

<第1段階>

- ・今年度の新入学生が2名、来年度はすべての学年で複式学級となる予想がされ、児童数の減少が著しい大花羽小への対応
 - ・今年度は全学年1学級で、今後も単学級の学年が発生することが予想される鬼怒中学校への対応
- 上記の2校は、極力早期に対応すべきという点で、第1段階とした。

<第2段階>

- ・今後、3年から5年を想定し、大生小と五箇小の統合、石下小と玉小と豊田小を統合する案
- ※第2段階の五箇小と大生小については、例えば、五箇小＋大生小＋三妻小＋水海道小の4校を統合し、老朽化がひどく、古い校舎の場合、4校分の児童が入れるだけの校舎を新築するなどの方法も考えられる。

<第3段階>

- ・五箇小＋大生小＋三妻小＋水海道小を統合する案
- ・第1段階に統合した大花羽小＋菅原小をさらに豊岡小と統合する案
- ・絹西小と菅生小を統合する案
- ・岡田小と飯沼小を統合する案

※なお、本素案は今後市立小中学校の適正配置を検討していくうえで、たたき台としてお示ししたものです。